

令和3年度第1回れんけいこうち広域都市圏ビジョン推進懇談会 議事概要

| | |
|-----|-------------------------|
| 日時 | 令和3年8月3日(火) 14:00~16:00 |
| 場所 | オンライン会議 |
| 出席者 | 別紙参照 |

1 開会

2 挨拶

高知市(岡崎市長)

3 議事

受田座長挨拶

- ・ コロナの影響が今も続いており、感染爆発のおそれもあるということで、経済や人々の生活に大きな影を落としている。多くの制約をそれぞれが克服しながらウィズコロナをいかに乗り越えていけるかということで、今まさに正念場を迎えていると思う。前回の会議ではアフターコロナに視点が移されつつあったが、ウィズコロナがまだ相当長引きそうであることを念頭に置きながら、どうやってコロナと共存していくか、このれんけいこうちの枠組みだからこそできる様々な工夫に英知を結集していただきたい。
- ・ 今回もDX(デジタル・トランスフォーメーション)に関するご意見を多くいただけたと思うが、国の方ではDXとともにGX(グリーン・トランスフォーメーション)という言葉がよく使われている。カーボンニュートラルに向けての考え方であり、持続可能かつ産業的なインパクトをもたらす様々なイノベーションがいかに巻き起こされるかという点は、我々も注目しておかなければならない。特に高知県の場合は84%の高い森林率ということで、森林環境税の導入をはじめ、サステナブルな地域社会の実現に向けて随分前から舵を切っており、多くの県民がその意識を持っていることなどはしっかりと強みに位置付けていく必要がある。世界情勢が目まぐるしく変わっていく中で、我々がどうあるべきかを考えていく場合、この持続可能性の維持という部分では高知県に一日の長があり、それをイノベティブに考えていく環境にあるということを認識しておいていただきたい。
- ・ れんけいこうち広域都市圏では、県全体が一つになって、広域での連携を描いていくということで、皆様の様々なアイデアをいただきたいのでよろしく願います。

事務局から資料説明

以下、委員意見

中川委員

- ・ 今回初めてこの会議に参加するという事で、昨年8月に開催されたビジョン推進懇談会の議事録を拝見した。その当時も各委員から様々な意見が出ており、そのうちの2件を反映したという説明があったが、その他の意見への対応はどうなっているのか。優先順位の関係等もあると思うが、昨年8月の会議では的確な意見が出ていたと認識している。
- ・ K P Iについては、アウトプットだけでなくアウトカムまでというのは大変難しいことであると理解しているが、今日の説明では、商談会が何件あって成果がこれだけあったといった表現が随所に見受けられた。K P Iのうち、特にウェブサイト等でのP Rに関するものは、情報発信した結果がどのような成果につながったのかなど、その評価検証には難しい部分もあると思うが、何かしら分析をすることはできないか。

⇒総務部

- ・ 資料1「いただいたご意見への対応・検討状況」において報告した2件については、れんけいこうち広域都市圏推進会議の中で各市町村からいただいた意見への対応状況という形で整理したものである。ビジョン推進懇談会で委員の皆様からいただく意見については、終了後に議事録を作成し、その際にご意見等も整理してお示ししていく。

受田座長

- ・ いただいた意見に対しては一定対応しているものと理解している。時間にラグがあること、委員の入替りもあることを踏まえつつ、丁寧な説明をお願いしたい。
- ・ 情報発信等のK P Iに関して、そのK P Iと成果とのつながりの部分でもう少し説明いただきたいということだが、いかがか。

⇒商工観光部

- ・ 資料2ページのグルメ&ダイニングスタイルショーへの出展（3回目）においては、開催後6か月時点の成約金額が15,187千円とあるが、この成約金額は、参加事業者に対して開催から6か月毎にヒアリングしたうえでまとめている。まずは商品のブラッシュアップを図りながら、成約金額を伸ばしていくことで、圏域の製造品出荷額等のK P I達成率につなげていきたい。事業単体で15,000千円では、6,400億円まで伸ばすにはまだまだという状況であるが、今後、ニーズに基づいたマッチング支援や、パイヤーとの協議をもとに各事業者で商品の磨上げ等をしながら、単年度の事業効果を上げて、最終アウトカムの達成につなげていきたい。圏域市町村や事業者と一丸となって取り組んでいく姿勢がより重要になってくると考えている。

受田座長

- ・ 今の説明で一定理解できるが、8ページの分野別K P Iと9ページからの各事業のK P I

がどのように関連し、また、どこが滞って最終的な成果が生み出されていないかといった部分を精緻に分析していくべきであるという趣旨でご質問いただいたが、いかがでしょうか。

中川委員

- ・ いかにも。例えば9ページの伝統産業推進事業に関しては、ウェブサイトの閲覧数が87,000ビューで達成率が242%であったと喜ぶことに終始するのではなく、その87,000ビューが一体どこから何を見に来たのかなどを分析することで次の取組につなげていくべきだと思う。製造品出荷額の目標値6,400億円については、高知市を含め各市町村が工業団地を整備し、企業誘致・事業拡大を推進していくことで収益増や雇用につなげるといった大きな取組でないと、一足飛びに解決できる問題ではないと理解している。もっと細かい部分を詰めていくべきという観点から意見させていただいた。

五百蔵委員

- ・ 20-11 インバウンド観光推進事業では、連携市町村全体に観光客が周遊するようにインバウンド観光を推進すると記載している。一方、20-12 人工知能(AI)を活用した外国人観光客への対応事業においても、AIを活用して圏域での効果的な周遊につなげると記載されており、どちらも連携市町村全体の外国人観光客の周遊促進を目指すという意味では重複している印象を受ける。特色を明確にした方が良いのではないか。また、AIシステムはコロナ禍以前から利用実績がほぼ低調と書かれてあるが、AIの活用にあたっては何を活用するのかを明確にすべきである。また、資料に「他のAI技術等を検討」とあるが、具体的にどのようなものを想定されているのか。
- ・ 連携中枢都市圏の3大テーマのうち、特に「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」においては人材育成が非常に重要である。デジタル変革が起きると、人の動きがなくなることで、経済的な動き、つまりこれまでビジネスを作り出していたものもなくなることになる。そうなれば必然的にこれまでとは別のところへ視点を移していかなければならなくなるなど、状況が複雑になると思う。こうしたことから、今後、多様化する課題に対応する自治体職員や、地域の担い手の育成が非常に重要になる。こうした観点から、DXを見据えてどういった人材育成をしていくのか。

⇒商工観光部

- ・ 20-11及び20-12の事業は外国人観光客の入込を増やすことを目標に、20-11で主に情報発信等に係る取組を実施し、20-12では、県内の外国人観光客向けのAI外国語案内システム「tosatrip」を提供し、スムーズな県内周遊の実現に向けて取り組んでいる。ただ、基本的には高知新港に寄港する大型客船を情報発信のターゲットとしていたところ、昨年度はコロナの影響により外国人観光客の入込みが非常に少なかったため、システム自体の周知も難しく、いずれの事業もKPIを達成できていない。
- ・ 「tosatrip」は国内観光客にも利用いただけるものだが、その中身が本当に観光客のニーズに応えられているかどうかは様々な課題があると認識している。今後、コンテンツの充実

を図りながら、現行システム以上に多くの情報を網羅し、かつ、的確な情報提供を可能とするより良いシステムがあれば、新たな事業として展開していくことも考えている。現時点で具体的に決まっているものはないが、今後も国内外観光客のニーズに応えられるようにこの事業を磨き上げていく。

受田座長

- ・ これまでの大型客船に対する依存からもっと取組を進めていかなければならない。今は国境を越えた移動が滞っているが、コロナ後に一気に爆発する可能性がある。日本あるいは高知県に対する興味を事前に集めていくためのニーズ調査などにより、ネット上での情報提供やAIを駆使したきめ細やかなサービスを、真のエッセンスにつなげていかなければならないと思う。
- ・ DX推進に向けた人材育成方法等の具体的なアイデアについてももう少し説明いただきたいとのことだが、いかがか。

⇒総務部

- ・ デジタル化の推進に伴う、人の流れや付き合いといった部分での「コミュニティの衰退」については国も懸念しているところで、誰一人取り残さないためのフォローもセットとしてデジタル化の推進方針を示している。先日の推進会議での意見交換会においては、日高村から、高齢者も含めたスマートフォンの普及・活用促進に係る取組を報告いただいた。我々も不慣れな部分を克服していきながら、デジタル技術を当たり前を使いこなせるような仕組みづくりをしていきたい。
- ・ デジタル化の波に取り残されないようにしていくため、市町村職員を対象とした統計データ活用事業で人材育成に取り組んでいる。この事業では、様々な情報に関する知識を習得し、データ活用を推進していくことを目的に、統計データ基礎研修会やRESAS研修会等の様々な研修を開催している。今後も、各市町村の意見を聞きながら、職員の人材育成のほか、防災人づくり塾による地域の担い手育成なども実施していきたい。

受田座長

- ・ 日高村の取組は非常に特徴的である。このような取組においては、一人が全体を育成していくという考え方をすべきではない。育成した人材が更に次の指導者を育成していくといった「知の再生産」をしていくべきだと思う。

蝶野委員

- ・ コロナ抜きで話をすることは難しいと思うが、昨年度の各事業の実施結果を全般的に見たとき、成果をどのように考えているか。
- ・ 資料に「デジタル化・オンライン化の加速的普及」とあるが、具体性がよくわからない。ハード面かソフト面か、または全然違う切り口か。

- ・ 私は昨年まで対面の講義がベストと考えており、オンライン講義は仕方なく始めた。しかし、実際にやってみるとオンラインには対面より優れた部分があることに気づいた。対面の講義では資料が見つらいこともあるが、オンラインでは自分の手元で資料を隅々まで参照でき、また、わざわざ現地に行く必要もない。このようにコロナ禍で始めたオンラインでの取組の中で、新たな発見につながった話があれば教えてほしい。話の持っていく方次第でこれまでにない面白い事業展開の可能性もあるかもしれない。

⇒中澤副市長

- ・ コロナ禍においては様々な工夫をしながら対応してきた。本来中止すべきものもあったかもしれないが、何らかの形で実現しようと職員が各市町村と協力しながら、想定以上に努力していただき、進めてきた結果だと思っている。

⇒総務部

- ・ デジタル化の加速化については、例えば就農相談会をオンラインで実施するなど、これまで対面で行ってきた事業に積極的にオンラインを取り入れていきたいと考えている。国からの臨時交付金をもとに、各市町村でもハード・ソフトの両面でデジタル化に向けた整備を急ピッチで進めている。そういったことも踏まえながら、れんけいこうちとしてどのようなことができるかも議論していきたい。

受田座長

- ・ 「加速的に」という言葉の持つ具体性という点で蝶野委員から質問をいただいたので、もう少し踏み込みが必要かもしれない。より一層進めるということの具体的、定量的な考え方や進め方をお示ししていただきたい。
- ・ コロナを契機に様々な変化が訪れていて、これにより新たに見えてくる世界があるということをお話いただいた。このご発言はとても重要だと思う。今後、産業振興において生み出される思わぬ副産物があると思うが、これをブレイクスルーとしていけばよりイノベーティブな話ができるようになると思うので、いかに全体で共有できるかがポイントだと思う。リモートにおいては暗黙知の擦り合わせが難しいという話もあるが、これを実現できれば、新たな発見につながるのではないかとと思う。事務局は、これは大発見だということがあったか。

⇒総務部

- ・ 現時点では特にこれといったものは見出せていない。令和5年度から始まる二期目のビジョンの中で、先程ご指摘いただいた定量的な部分やデジタル化の加速化を意識した事業を検討していきたい。

吉田委員

- ・ 昨年度の取組に「防災人づくり塾サテライト実施」とあるが、コロナの影響によるのか応募状況が芳しくなかったという記載が見受けられた。最近高知市内でも津波が来ない場所への事業所移転等が積極的に進められているが、震災発生時に周辺住民を避難させるリーダー的な人の育成の進捗はいかがか。弊行にも避難所に指定されている支店があるが、来店されるお客様に地震対策を啓発するビラ配りをするなどし、日常的な対策あるいは発災時の避難方法等に関する知識を全住民に持っていただければ、いざというとき、各自で安全確保できるようになる。そういった啓発については今後どうしていくのか。

⇒防災対策部

- ・ 昨年度の防災人づくり塾では、防災士資格の取得につながらないこと、1回だけの開催となったことから人数が少なく、特に高知市会場が少なかった。しかし、今年は高知市会場160人の定員が埋まった。コロナ禍ということで今年も開催時期を遅らせたが、今のところ順調に進んでいる。
- ・ 啓発等については、基本的には地域の自主防災組織を中心とした取組を行っている。自主防災組織の人口に対するカバー率は概ね100%に近づいているものの、実際の活動率についてはまだまだ課題があるので、防災人づくり塾等によって地域で活動していただける人材の育成や、地域での色々な講習会等の活動を地道に続けているところであり、ご理解、ご協力をお願いしたい。

受田座長

- ・ 金融機関と行政との連携をさらに描いていければ、れんけいこうち広域都市圏としての新たな事業という意味での広がりを見せると思う。

川淵委員

- ・ 短期的な就労、副業や兼業等、働き方の形が見直されつつある。短期間でも高知に居住される方が増えてきているので、移住の観点から高知の良さをよりアピールできるものがあれば良いと思う。今後、オンラインは外せない道具になるので、非対面の状況にあっても通じ合えるような工夫がDXの課題であると思う。
- ・ TSUNAGUマーケットの開催やECサイト等様々な販路開拓支援も是非お願いしたいところであるが、その先が見えるような形を作っていただければ、皆さんが参加しやすいかもしれない。

⇒総務部

- ・ 移住においては当然仕事がないとなかなか定住していただくことができない。れんけいこうちで人を呼び込む施策を推進しているが、高知県全体でれんけいこうちの枠組みとセットになって取り組もうとする動きもあり、特に移住の際の「仕事」に関する支援については各市町村もそれぞれ取り組んでいるが、県の移住促進・人材確保センターとも連携しながら進

めていこうとしている。情報発信の仕方等については改善の余地があるので、連携市町村や県とも一緒になって取り組んでいきたい。

⇒商工観光部

- ・ グルメ&ダイニングスタイルショーへの出展の際は、「こうちプレミアム」という冠をつけ、各市町村に推薦いただいた事業者の商品を持ち込み、バイヤーとのマッチング等の実際の成約につなげていくことで、まずは全国的な知名度を上げていくことを目的に取り組んでいる。ECサイトを構築してオンライン上で交流していくことももちろんだが、まずはリアルな対面の場での知名度向上を図っている。
- ・ 現在、「とさのさと AGRICOLLETTO」内にれんけいブースを立ち上げ、各市町村の地元産品を集めて販売しており、非常に好調である。さらに、一大消費地である高知市内の百貨店に新たな販売拠点を設け、そこでの販売に加えて、百貨店が持つネットワークを活用して全国への販路拡大を目指していきたいと考えている。
- ・ 伝統的産品も同様に、まずはECサイト構築、新たな販売拠点の設置等により、知名度を上げていくことを目指している。また、高知市内の方にも県内の良いものを知っていただき、最終的には「こうちプレミアム」というブランドで全国に商品を紹介していき、定番商品として取り扱っていただけるようにしていきたいと考えており、現在具体的な検討に入ろうとしている。

岡林委員

- ・ 「竜とそばかすの姫」の関係で、今後れんけいこうちで具体的な事業があれば、高知県観光コンベンション協会としてもPRしていきたいので、内容を教えていただきたい。
- ・ 観光客動態調査事業の成果品について、サマリーだけでなく、分析ができるように生データを提供していただきたい。また、調査地点にこうち旅広場を加えていただきたい。

⇒商工観光部

- ・ 「竜とそばかすの姫」のロケーションスポットを、高知市の広報紙「あかるいまち」8月号で紹介するなど、PRに取り組んでいる。現時点でれんけいこうちの事業として具体的に計画しているものはないが、昨年度、高知県観光コンベンション協会の協力もいただきながら、広域観光推進事業の中で各地域の周遊観光商品を9本組み上げており、その中に竜とそばかすの姫のロケ地巡りツアーを加えてPRすべきではないかと考えている。今後各市町村と検討させていただきたい。
- ・ 観光客動態調査事業については、ご意見を踏まえて改善させていただく。

受田座長

- ・ 様々な企画を練っていただければ大変効果的だと思う。

井奥委員

- ・ 高齢者へのデジタル活用支援について、今年、国が高齢者へのスマホ講座に係る事業を予算化したと聞いた。本県は高齢者が非常に多いので、マイナンバーカードの利活用等も含め、こうした取組が結果として高齢者の生活の質の向上につながると思う。れんけいこうちとして圏域全体で取組を進めていただきたい。
- ・ 私は仕事柄、福祉人材の育成・確保に携わっているが、ミスマッチの問題、最低賃金の問題等、コロナ以前から非常に厳しい状況にある。経済的・金銭的な部分については拡充が図られるという動きがあるが、れんけいこうちの方でも、生産性向上や移住の促進などといった様々な視点から積極的に福祉に関わっていただくことを期待している。

⇒総務部

- ・ ワクチン予約にあたって、高齢者の方がスマートフォンを使えるのか、持っているのかと懸念していたが、市内の携帯ショップに習いに来る人が増えたという状況もあった。現時点で、れんけいこうちで検討しているものはないが、国も高齢者を取り残さないための講習会といった支援の方向性を示している。高知市もその流れはきちんと踏まえながら、そういう取組を進めていきたいと考えている。れんけいこうちでどうやるかというのは今後の検討課題とさせていただきたい。

黒笹委員

- ・ 今日の報告では、物事が進まないことを全てコロナのせいにしていくようにしか聞こえなかった。もうコロナを言い訳にするのをやめてほしい。また、れんけいこうちに限った話ではないが、市役所内にコロナ対策を考える部署と、ポストコロナや総合的なことを考える部署の2つを作ることが、今一番必要なことだと思う。れんけいこうちはほとんどがプリセットで、臨機応変に動くイメージがない。「竜とそばかすの姫」が報告に入っていなかったが、観光的には今年の最大のテーマだと思う。このコロナでフリーズしている時間を有効に活用できることはないか。
- ・ 「国や県の様子を見ながら」という説明がたくさんあったが、もう様子見することをやめ、国・県のお金や施策が決まらなくても、自分たちでできることを考えてほしい。
- ・ 防災人づくり塾については、オンラインでも資格が取れるように考えるべきである。
- ・ 日曜市そのもののEC化は検討しているのか。それぞれの出店者が独自にインターネット上で物を売ってはいるが、日曜市を統合したポータルサイトのECサイトはない。情報発信も併せて、まずは本体がしっかりEC化し、その流れを受けてれんけいこうちのEC化に持っていくべきではないか。
- ・ 熱中小学校はれんけいこうちの取組とするのではなく、市町村の個別対応という結論になったそうだが、熱中小学校には地方の役場の方々に役立つ先生方が来られている。そういう情報がなかなか各地域まで回らないので、れんけいこうちの中で情報共有をしていただきたい。

- ・ れんけいこうちでコロナ対策，特に医療面でできることはないか。また，検討されているか。時代に即応して，れんけいこうちできちんと動いているかという意味でお聞きしたい。

受田座長

- ・ コロナを言い訳にすること，国・県の様子を見ながらと発言することをやめましょうという点については非常に大きな問題提起だと思う。さらに，守らなければいけない部分と，攻めの部分を両立させていきたいと思いますという，前向きでもあり，事務局にとっては厳しい部分もある意見かもしれないが，いかがか。

⇒中澤副市長

- ・ まさしくそのとおりだと思う。今回は，進捗状況報告であるのでどうしてもそういった表現となるが，当然我々にできることはしていくので，これからも単にコロナだからというのではなく，コロナ禍で何をすべきか，どうすればより効果を上げられるか常に考え，進んでいくことが必要だと思う。
- ・ 国，県の動きについては，限られた財源の中で何をするかを考えるうえで，注視していく必要もあるが，ご意見をしっかりと受けとめて，今後取り組んでいきたい。

⇒防災対策部

- ・ 防災人づくり塾については，サテライト会場でも資格が取れるように要件緩和を要望しており，これからも継続して日本防災士機構へお願いをしていきたい。

⇒商工観光部

- ・ 日曜市は生活市であり，観光資源でもある。そこに行っていただく楽しみ方が第一義であるが，昨年，全国的な緊急事態宣言が発令されたときに日曜市を中止した際に，民間事業者の日曜市の商品をオンラインで販売していただいた。こうした事業者との連携から，日曜市の商品の全国発送・PRをスタートさせていくことを考えているので，現時点で高知市単独での日曜市のEC・ポータルサイト化には至っていないが，今後の検討課題とさせていただく。

⇒総務部

- ・ 熱中小学校の件についてはしっかりと情報共有をさせていただく。
- ・ 医療面のコロナ対策に関して，れんけいこうちでは医療・福祉面の取組は少ない状況であり，現時点では見出せていないが，市町村とも意見交換しながら課題の抽出・解決等を含めてれんけいこうちとしてできることを検討していきたい。

受田座長

- ・ 黒笹委員のご意見は非常に示唆に富むものである。この会議での意見を事務局はしっかりと受け止め，首長が集まる協議の場等においてもそういうスタンスを共有いただければ，こ

の枠組みならではの様々な工夫やイノベーションが生まれてくるのではないかと思う。

徳重委員

- ・ 今、国ではコロナの感染対策が大事なポイントとなっているが、高知のようにまだ考える余裕があるところでは、コロナ後の世界をリードできるように様々な対策・施策を先んじて考えておく必要がある。
- ・ 厚労省や内閣府等で様々な人材支援のパッケージはできているが、人材確保の難しいところは、制度的なパッケージができて、実際のマッチングがうまくいくか、高知に来てくれる人材がいるか、人材の絶対量が足りていないのではないのかという点が挙げられる。県と市町村がしっかり連携して確保していくべきである。
- ・ デジタル化には、産業界全体のデジタル化と行政分野のデジタル化の大きく2つある。行政分野のデジタル化では、行政手続きのオンライン化、AI、RPAの導入、各種システムの共同利用・共同開発などを進めている。また、マイナンバーカードは今後のデジタル社会における基盤になると考えられるので、このタイミングでできるだけ多くの方に持っていただくように普及を促進したい。
- ・ れんけいこうちにおいては、県も一緒になってデジタル化などに取り組んでいきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

受田座長

- ・ 高知市と33市町村でどのように連携していけば効果的なのか、かなり手探りでスタートしていると思う。DXやコロナ等、各市町村でフルセットで背負い込むことができない問題を補完し、また、シナジーを発揮していけるよう、れんけいこうちの枠組みの有効活用に向けた議論を深めていただきたい。
- ・ 日曜市のEC化に関連して、今後、ネット上で高知の食を売り込んでいく取組がますます展開されていくと思う。内閣府で議論していることだが、その際、食品表示法上の課題がある。ECサイト上の表示はあくまで広告の一部と位置付けされており、ECサイトの顧客は食品表示を確認することができないという非常に大きな問題に直面している。高知の食を売り込んでいく際は、法整備の前に先取りしていく形で、食品表示や価値をより見える化することで、真心のこもった商品をお届けできるような工夫をしていただければと思う。

議事終了

中澤副市長挨拶

- ・ 本日は長時間にわたり、本当にありがとうございました。県内全市町村が一緒になって進めていく「れんけいこうち広域都市圏」であるので、皆様からいただいた貴重なご意見を他市町村とも共有し、検討を進めながら、前向きに高知県の人口問題や産業振興等の活性化に向けて取り組んでいくので、皆様には、引き続きご支援をよろしくお願ひする。